

募集班長の模型部屋(第29回)

皆さんメリー・クリスマス！皆さんはサンタさんにどんなプレゼントをお願いしたのでしょうか。私はもちろんプラモデルをお願いしていますが、もし可能ならばと新しいエアブラシ用のコンプレッサーをお願いしてます。だって、いい子のみんなに届くならば、いいお父さんにしていた私にも届けて欲しいもん！まゝ娘達からは「おいおい、47のオヤジが何馬鹿なことってんの？」と呆れ顔されてます。皆様も幸せなプレゼントが届くと良いですね。

さて今回は、久しぶりの外国近代戦車を作りましたので紹介します。

T-90です。



キットはmeng社製で、実車を取材して作られているため精密度が高く、当然パーツ数も多くて値段も6千円弱という貧乏モデラーに対して大打撃を与えるものでした。秋葉原の模型店に行ったときにその箱絵に一目ぼれし、その後の生活費を考えず購入しちゃいました。箱を開けて気の遠くなるようなパーツ数に着手をためらいましたが、取っておいてもしょうがないし、意を決して作成開始し、約2ヶ月の期間で完成させました。途中休憩期間を入れたりしましたが・・・

やっぱ、組み立て式の履帯がきついですね。完成したときの精密度は抜群なのですが、サイドスカート付けるとその半分が見えなくなっちゃう・・・でも、その無駄な作業工程も含めてプラモは面白いのです。



ロシア製のキットなので、説明書も英語・ロシア語等の外国語を使用しており、難しいかな・・・と思っていましたが、説明図が丁寧でしたのでストレスなくみ上げる事が出来ました。色の指示が海外メーカー社製の塗料なので、国内メーカーの色に整合させるのに少し苦労しました。



長砲身のロシア戦車の特徴をよく捉えています。我々のライバル戦車の一つですが、ロシア戦車のこの低いシルエットは私は好きです。

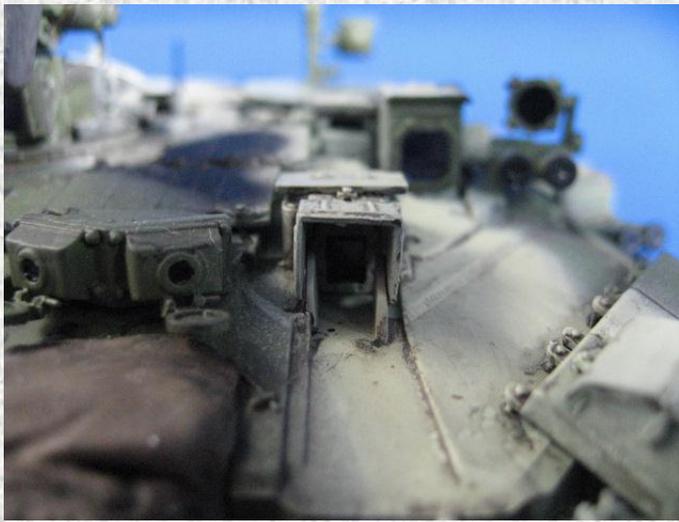


砲塔周りの状況です。追加装甲が更に強そうな印象を醸し出します。このような状況でエナメル塗料でのスミ入れをすると細部の部品に流れ込み、接着面を侵してバラバラになっちゃいますので、今回はサクラマット・マルチ水彩絵の具を使用しました。少しアクリル溶剤を足してスミ入れし、濡らした綿棒で拭き取りました。

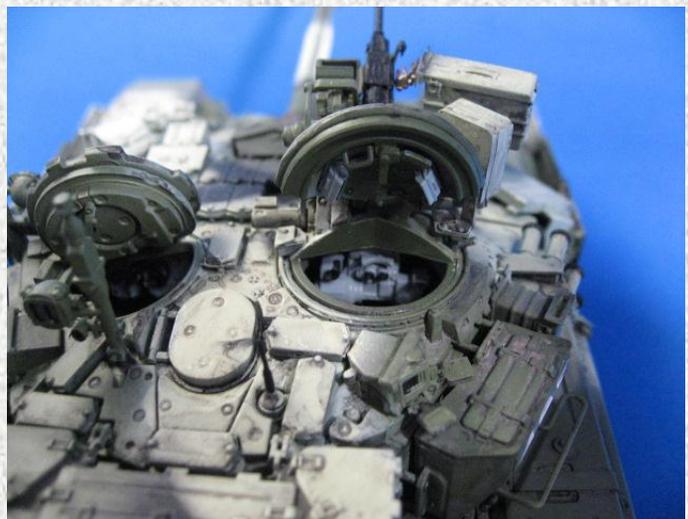
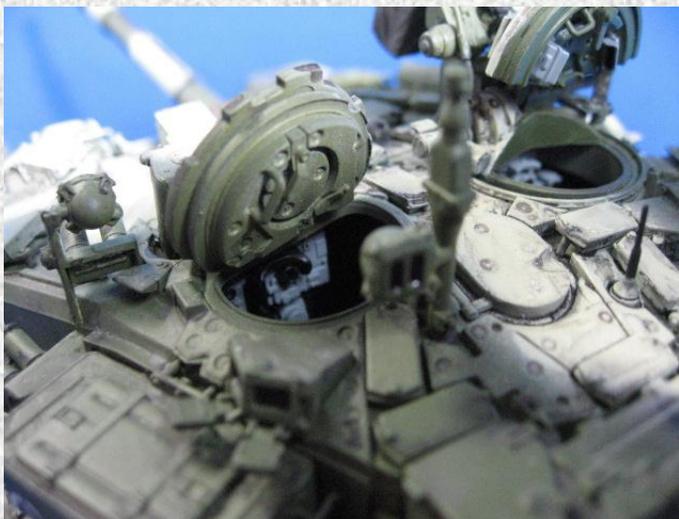
機関銃は、フラットブラックで塗った後に鉛筆の粉をこすり付けるいつもの手法です。もう、部品が折れそうで怖いです。(笑) 弾薬のベルトがリアルです。



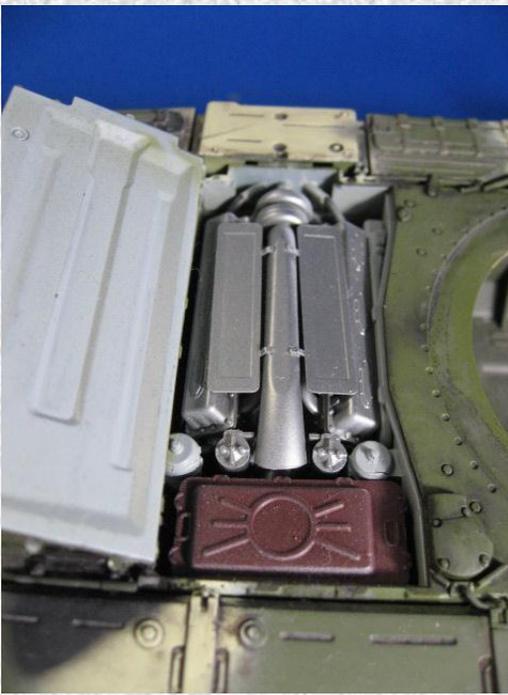
追加装甲がこんなに付いちゃうと、製作するときにかつに触るとぼろぼろ落ちてしまいます。もちろん、塗装前に接着しているのでそんな心配はほぼないのですが。完成後、砲塔を回すときに気を使ってしまいます。また、スミ入れの拭き取りにも神経を使います。少しずつ丁寧に拭き取らないと綿棒の綿が引っかかって破損してしまいます。



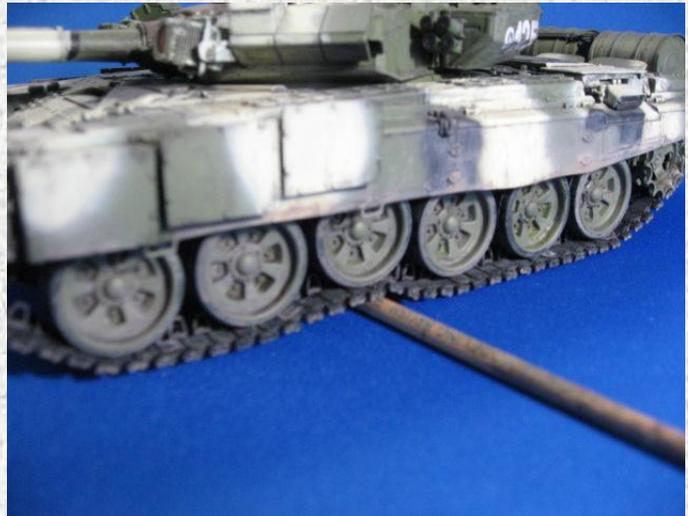
透明部品もふんだんに使用されています。IRライトや前照灯、各種ペリスコープ・・・完成後、透明部品の特性が発揮されるのはIRライトだけです・・・後はほとんどわかりません。



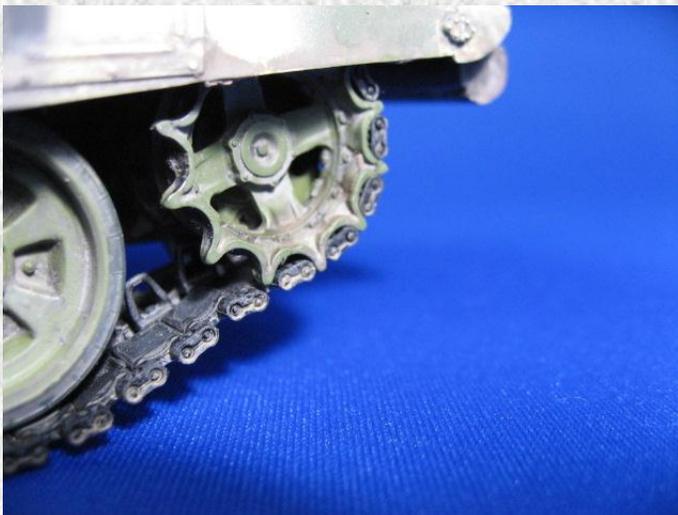
砲塔諸装置も見えるところですが、キット化されてます。ハッチを開けた時に目立つ箇所なので、うれしい部品であります。



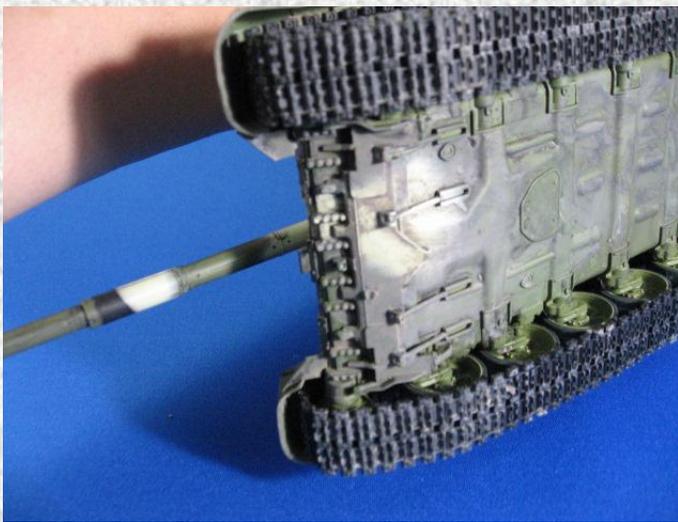
エンジンもキット化されています。こりゃ凄い！けど、エンジンハッチを開けるためには砲塔をどう回しても無理！実車では装置を外すしかないと判断されますが・・・めんどくせー！



足回りもトーションバーにて転輪が上下に可動！第1転輪と第6転輪を固定せずとも車体が必要以上に沈まないのはさすが。安心して遊べます（笑）



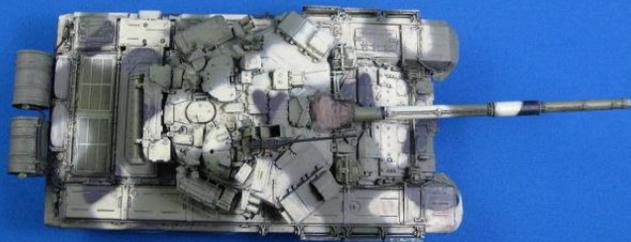
履帯も組み立てやすく、完成後の精密感が凄い！



車体が低くて見えませんが、車体前後下部のアップ。牽引ワイヤーが使いづらそうです。ピントがずれてすみません。



砲を横に向けて疾走するT-90です。私の好きな戦車のアングルです。どの戦車もこのアングルを見るだけでご飯3杯行けちゃうくらいです。ロシア戦車は砲身が長いので特にそうかんじちゃいます。



上方から見たT-90 市街地戦闘で建物の上からの戦車はこんな感じかな。ドカーン！
バリバリ！！戦車を動かしつつ、ふと夜の寂しさが身にしみる単身赴任の夜・・・



「市街地戦闘」だなんて恐ろしいですが、
フチ子を乗せれば癒しメカに早変わりです。プ
レゼントを戦車で届けに行くよ！

それでは皆様、



メリークリスマス！